

ラマダ ンにおける 言者

:

明:ラマダ ンにおける 言者ムハンマドの教え。

目:[事崇 行 とその 実践の五ヶ条」 とその他の崇 行](#)

より: シャフル ハミ ド教授

日10 Mar 2014

集日 27 Mar 2022



私たちの目を、埃っぽい地面から星の く天に向けさせたのはムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）でした。私たちを暗 の暗 から神の光へと きだしたのはムハンマドでした。

言者こそが、私たちに先立って石像や木像の神々を破 した者です。ムハンマドこそが、 れた偶像崇 の から私たちを救い出し、唯一なる神への信仰を甘美なものとしたのです。

ラマダ ンのみいつの夜に、クルア ンはムハンマドに 示され、ヒラ の洞窟で最初の 々を受け取ったのです。（イブン アッバ ス）

その 、 言者は日中の断食、夜 の礼 によっていかにラマダ ンを祝うかを教えました。ラマダ ンは 日、断食によって忍耐し、礼 によって感 を示すのです。

意外な 化

彼は人々の弱さについて熟知していました。そしてそのことは、断食において彼が追者たちに して せた心配りによって明白です。彼はムスリムたちがサフル（夜明け前になる、断食前の食事）を夜明け前の礼の少し前まで らせ、イフタル（断食明けの食事）を日没の礼の まで させないよう教えたのです。それは、断食の が延びることにより、不要な 担がかからないようにするためです。

ラマダ ン中に旅をした 、 言者は断食を 行ことも、断食を延期したこともありました。そして彼は教友たちの能力や状 に じて、どちらか好きな方を ぶことを したのです。

言者が断食をせずに む旅路の最低距 を明言しなかったことは、特 に することでしょう。彼の教友たちは、 言者自身によってそうされたように、 には家を出てすぐに断食を 解きました。

同 に、酷暑のときや身体 の きにおいて、 言者がそうしたように に水をかぶることが 可 されています。

ラマダ ン中における妻との触れ合いにおいては、ラマダ ン中も通常 と わりませんでした。彼が禁じたのは、明らかに断食を にする行（性的行）だけでした。

タラ フィ フ礼（ラマダ ン中の夜 に行われる任意礼）に しては、当 それが合同で行われることが となりつつありましたが、 言者はそれを けることによって 化されてしまうのを恐れ、中断したということが されています。

それゆえ、タラ フィ フ礼 が合同で行われることがより良いという模 を示しながらも、その慈悲から任意のままであることを したのです。

遁：魂の し

ムスリムにとって、ラマダ ンの最 の10日 に、ライラトル=カドル（所 、みいつの夜）を探し求めることが、その最高潮となります。この期 において、 言者が した行の一つとしてイアティカ フがあります。それは、モスクに って神への想念と崇 にすべての を

捧げる、精神的な 遁行 です。

代社会において、人々ははかない快 にふけりがちであるため、 には崇 の家に ることも重要です。それは魂の しのため、そして自らの 造主に立ち返るためには必要不可欠な のです。

それゆえ、敬 すべき 言者は私たちに、 固な欲求に する として、また自己 足のための欲望を放 するため、また苦 との直面における忍耐と辛抱の 践のためにラマダ ンを有 に ごす方法を教えたのです。

言者はラマダ ン中、特に まれない人々に手助けをすることは私たちの任 であるとして、それを く めました。

そして何よりも、ラマダ ンは全能なる神の 大さと恩 について熟考し、守 者としての主のご慈悲を求めて真 に悔悟しつつ、かれに立ち返る月なのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1708>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。